

## 6月19日 岐阜県立森林文化アカデミーの国有林実習で実験林等を案内

### 【森林技術・支援センター/岐阜森林管理署】

のりまさ おがわながほら

6月19日、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林において、岐阜県立森林文化アカデミーのエンジニア科2年の学生22名が、国有林の施業などについて、現地実習を行いました。

ちょうばつきせぎょうりん

最初に乗政国有林において、「ヒノキ長伐期施業林」を見学しました。この施業林は平成28年度に製品生産請負事業で間伐材を搬出した箇所で、岐阜署の職員から林齢が百年を超えるヒノキ人工林の間伐や木材販売について説明しました。



ヒノキ長伐期施業林の実習状況  
(乗政国有林)

じゅかん りんしょう

林内で樹冠や林床の状況を確認し、今後の施業方法について意見交換が行われ、学生からは「林分が密になっている箇所のみ間伐を行っていき、最終的に主伐を行う。」「帯状に伐採して、伐採した箇所に新植を行う。」「神宮備林を目指して少しずつ間伐を行い、200～300年生の林にしていく。」等、活発に意見が出されていました。

小川長洞国有林に移動して、「ヒノキ間伐展示林」では定性間伐で間伐率が異なるプロットと異なる列幅の列状間伐の林分を見学し、当センター職員から展示林での間伐の効果やプロット毎の優劣、研究成果等を説明しました。これらをふまえて、現在の林分の状況、今後の伐採方法等について、学生同士の意見交換が行われました。



ヒノキ間伐展示林の実習状況  
(小川長洞国有林)

次に、令和7年度から開始した林野庁統一課題「超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用」について、試験で使用している苗木（①超緩効性肥料を培地に入れた特定苗木、②特定苗木、③普通苗）を前にして、課題の目的や現状について説明を行いました。



林野庁統一課題の説明  
(小川長洞国有林)

最後に民有林ではあまり見ることができない中間温帯（暖温帯と冷温帯の中間）の天然林を見学しました。この天然林には、ヒノキ・コウヤマキ・モミ・広葉樹等が混交しており、学生からは「こんなに大きなコウヤマキは見たことがない。」などの感想がありました。



中間温帯の天然林の見学状況  
(小川長洞国有林)

梅雨の時期でしたが、雨も降らず比較的過ごしやすい中、充実した実習となったようです。今後も学校等からの要請に応じ、国有林の案内や情報提供に努めていきたいと考えています。